

2020（令和2）年度

事業報告書

学校法人 海星女子学院

1 法人の概要

(1) 建学の精神

海星女子学院は、「真理と愛に生きる」を建学の精神とし、キリスト教の理念に基づいて設立されました。設立母体であるマリアの宣教者フランシスコ修道会は世界宣教を使命としている修道会です。

戦後の荒廃した神戸に呼ばれた当時の修道会管区長マリー・ムスチュ・ド・カンシーは、新しい時代を生きる女子教育に大きな夢を描き、「神様のことを教えたい。正しい人間として成長して欲しい。良い教育を与えたい。」と望み、1951年（昭和25年）青谷に学校法人海星女子学院を設立しました。以後、幼稚園から大学までの総合学園として、一貫した創立精神のもと、キリスト教的価値観を土台とする全人教育の場の実現を目ざしています。

(2) 学校法人の沿革

1951（昭和26）年

学校法人海星女子学院設立認可

海星女子学院小学校・海星女子中学校・海星女子高等学校設置

1952（昭和27）年

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園設置

1953（昭和28）年

熊本聖母愛児幼稚園設置

1954（昭和29）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール設置

1955（昭和30）年

海星女子学院短期大学英語科設置

海星女子中学校・海星女子高等学校を海星女子学院中学校・海星女子学院高等学校に名称変更

1962（昭和37）年

海星女子学院短期大学家政科設置

1964（昭和39）年

海星女子学院短期大学を神戸海星女子学院短期大学に名称変更

福岡海星女子学院中学校・高等学校設置

（福岡）マリア幼稚園を法人統合

海星女子学院小学校・中学校・高等学校を神戸海星女子学院小学校・中学校・高等学校に名称変更

1965（昭和40）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科設置

1966（昭和41）年

神戸海星女子学院短期大学英語科廃止

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園を神戸海星女子学院マリア幼稚園に名称変更

1968（昭和43）年

福岡海星女子学院附属小学校設置

1980（昭和55）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール廃止

1984（昭和59）年

福岡海星女子学院幼稚園・小学校・中学校・高等学校を法人分離

1998（平成10）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科を英語英米文学科、フランス語フランス文学科に名称変更

熊本聖母愛児幼稚園を法人分離

2000（平成12）年

神戸海星女子学院短期大学廃止

2004（平成16）年

神戸海星女子学院大学文学部英語英米文学科、フランス語フランス文学科を国際英語メディア学科、心理こども学科に改組。

2008（平成20）年

神戸海星女子学院大学文学部国際英語メディア学科、心理こども学科を現代人間学部英語キャリア学科、観光ホスピタリティ学科、心理こども学科に改編

2012（平成24）年

観光ホスピタリティ学科を募集停止。

2014（平成26）年

英語キャリア学科を英語観光学科に名称変更

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等
神戸海星女子学院大学	昭和40年1月	現代人間学部 (英語観光学科) (心理こども学科)
神戸海星女子学院高等学校	昭和26年3月	全日制(普通科)
神戸海星女子学院中学校	昭和26年3月	—
神戸海星女子学院小学校	昭和26年3月	—
神戸海星女子学院マリア幼稚園	昭和27年1月	—

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(2020年5月1日現在) (単位:人)

学校名	入学定員数	収容定員数	現員数
神戸海星女子学院大学	95	380	384
神戸海星女子学院高等学校	150	450	424
神戸海星女子学院中学校	150	450	427
神戸海星女子学院小学校	50	300	291
神戸海星女子学院マリア幼稚園	100	300	281

(5) 教職員の概要

(2020年5月1日現在) (単位:人)

区分		本部	大学	高等学校	中学校	小学校	幼稚園	計
教員	本務	0	21	21	24	20	19	105
	兼務	0	56	8	21	8	12	105
職員	本務	5	16	5	2	3	3	34
	兼務	1	5	1	4	1	2	14

(6) 役員に関する事項

① 役員名簿

定員数 理事 8名、監事 2名

(2020年5月1日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常 勤	
理 事	森田 和子	常 勤	カトリックセンター長
理 事	小野 礼子	常 勤	大学長
理 事	糸井 孝幸	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	澤井 育子	常 勤	幼稚園長
理 事	村田 博	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	荒井 俊朗	非常勤	
監 事	西村 繁秀	非常勤	

【参考】(2021年5月1日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常 勤	
理 事	森田 和子	常 勤	カトリックセンター長
理 事	石原 敬子	常 勤	大学長
理 事	糸井 孝幸	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	澤井 育子	常 勤	幼稚園長
理 事	村田 博	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	荒井 俊朗	非常勤	
監 事	西村 繁秀	非常勤	

② 責任限定契約の状況

私立学校法に従い、令和2年4月1日より責任限定契約を締結した。

・対象役員の氏名

非業務執行理事（村田博）、監事（荒井俊朗、西村繁秀）

・契約内容の概要

非業務執行理事及び監事はその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金50万円と、役員報酬の2年分との、いずれか高い額を責任限度額とする。

③ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

私立学校法に従い、理事会決議により令和2年4月1日から役員賠償責任保険に加入した。

・保険者

東京海上日動火災保険株式会社

・被保険者

記名法人 学校法人海星女子学院

個人被保険者 理事・監事

・補償内容

役員（個人被保険者）に関する補償 法律上の損害賠償金、争訟費用等

記名法人に関する補償 社内調査費用、第三者委員会設置・活動費用

・支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

・保険期間中総支払限度額

3億円

(7) 評議員の概要

定員数 17名

(2020年5月1日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	澤井 育子	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
森田 和子	カリックセンター長	山田喜美子	
廣瀬 勝美	中・高教諭	村田 博	
石倉 哲也	小学校教頭	梶田 行雄	
横田 和男	幼小中高 事務長	芝山 豊	
小野 礼子	大学長		

【参考】(2021年5月1日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	澤井 育子	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
森田 和子	カリキュレーター長	山田喜美子	
廣瀬 勝美	中・高教諭	村田 博	
石倉 哲也	小学校教頭	梶田 行雄	
若林 洋子	小中高 事務長	芝山 豊	
石原 敬子	大学長		

2 事業の概要

(1) 神戸海星女子学院大学

1. 学生募集、広報活動

① 学生募集

2020年度の入学人数は、英語観光学科編入学生2名を含め、英語観光学科72（前年度編入学生1名を含め74）名、心理こども学科37（前年度36）名、合計109（同110）名であった。定員充足率は112.6%（英語観光学科155.6%、心理こども学科74.0%）であり、2017年度から四年連続して定員を上回る入学生を確保することができたことになる。一方で、心理こども学科に関しては、四年連続して定員を下回る結果となった。入試日程では、A0型入試での入学人数が英語観光学科21名（30%）、心理こども学科13名（35.1%）と両学科において最多であった。面接重視の前半日程（A0型と指定校推薦）と学力判定を含む後半日程（公募推薦・一般入試・大学入試センター試験利用）に分けて分析すると、前年度は、英語観光学科は後半の日程を中心に（21.9%対78.1%）、心理こども学科は前半の日程を中心に（72.2%対27.8%）入学生を確保していたが、2020年度は、英語観光学科44.3%対55.7%、心理こども学科54.1%対45.9%と、両学科とも前半と後半の日程選択の開きが小さくなった。2020年度の入学生に対する学費免除等奨学金受給者数は、①カトリック高校出身者入学免除2名（前年度1名）、②入試成績優秀者授業料免除及び施設設備費等全額免除2名（同1名）、③英検2級相当以上資格取得者1年次1年間授業料免除7名（同2名）、④英検2級相当以上資格取得者1年次春学期授業料免除15名（同20名）であった。

② 広報活動

COVID-19の感染拡大により、当初計画していた募集活動のうち人流を伴うものについては、中止や方法の変更を余儀なくされた。COVID-19に配慮して行った活動は以下のとおりである。

(ア) オープンキャンパス

春のオープンキャンパスは中止し、6月以降は、午前・午後の二部、事前予約制とし、予約人数も午前・午後各学科10名を上限とすることで、短時間且つ少人数で実施した。また学内スタッフはもちろん、来場者も受付での検温及び手指消毒を実施し、個別相談ブースには飛沫防止パネルを設置して対応した。日程としては春を除く全16日程実施することができたが、事前予約制及び人数制限を設けたことで、高校生の参加者は186（前年度368）名、保護者等135（同262）名と、前年度比約半数に終わった。

(イ) WEB上での進学相談会

業者主催の高校内ガイダンスや会場型ガイダンスが中止となったため、オンラインで受

験生にガイダンスや相談対応ができるシステムを構築した。

- ・AO[KAISEI]入試事前面談：事前予約式で、オンラインによる面談を実施した。
- ・「おうちでオープンキャンパス」サイト：入試制度の説明や学科紹介をするため、各種動画コンテンツを提示すると共に、個別相談に応じた。
- ・在学生広報スタッフとの交流：オープンキャンパスで来場した高校生や保護者に対し、在学生の声で大学や学科について説明をする機会を設定した。

(ウ) 土曜進学相談会

春学期は基本的にZoomを使っての対応とした。秋学期は教員1名・職員1名を配置し、来校した高校生及び保護者に対面で対応した。土曜以外の曜日に希望があればアドミッションセンター課員で対応したり、オンラインでの相談の希望があればZoomで応じたりするなど、柔軟に対応した。

(エ) 高校訪問

専任教職員による高校訪問は、感染拡大防止に配慮し、訪問校と相談しながら慎重に行った。

(オ) 出張授業・進学相談会

合計58件の出張授業及び進学相談会に参加した。

(カ) その他

5月後半から6月初旬に4回(本学2回、大阪1回、姫路1回)計画していた高校・予備校・塾教員対象入試説明会は、中止とした。

2. COVID-19の影響に対する支援策

① 全学生への支援金給付

オンライン授業のためのパソコンの準備やインターネット環境の整備等に対しての支援金として、全学生を対象に一律5万円を給付した。給付方法は、秋学期学納金請求額から5万円を控除して請求するという方法をとった。

② 特別緊急授業料減免

COVID-19感染拡大の影響により家計が急変した世帯の学生に対して「特別緊急授業料減免を行った。30名以内の学生に対して、2020年度の授業料において30万円(春学期15万円、秋学期15万円)を限度とし、学修の継続を支援した。

③ パソコンの貸与

パソコンを家族と共用しなければならない場合や、経済的にパソコンの購入が難しい学

生に対し、ノートパソコンの貸し出しを行った。

④ 大学内におけるパソコンの貸出

全面遠隔授業期間中、インターネット環境整備その他の問題で自宅での受講が困難な学生に対し、大学内で遠隔授業を受けることを許可した。

⑤ 国の修学支援新制度

2020年4月から始まった当新制度に対して多くの学生が申請をし、春学期・秋学期で延べ108名の学生が授業料減免を受けた。経済的に困窮している学生が増えていることが伺える。

3. 大学評価の申請

2021年度に公益財団法人 大学基準協会による大学評価（認証評価）を受けるため、2019年度に立ち上げた大学評価プロジェクトの構成員が中心となり、1年を通して「評価資料」（「点検・評価報告書」「認定一覧表」「大学基礎データ」「基礎要件確認シート」「提出資料一覧」及びその他の根拠資料）の作成・準備を行い、2021年3月末日に「評価資料」（「点検・評価報告書」等）を大学基準協会に提出した。2021年8月から10月の間に2日間の実地調査を受けることになる。

4. 教育活動

① 英語観光学科

8月に帝国ホテル大阪で実施予定であった1年次対象の「ホスピタリティ研修」は、COVID-19の影響を鑑み、12月への延期も計画したが、感染拡大の収束が見られないことから再度延期を決め、2021年度に新1年次生と同時に実施することにした。2021年1月には、学科全体のイベントとして“海星 English & Tourism Festival”を開催した。読書課題発表、オンライン留学報告、旅行プラン・地域活性化フィールドワーク報告、クラブ発表という内容で、1年次生から3年次生までの36名の学生が発表した。感染拡大防止のため、メイン会場を大講義室（AH）とし、3教室をオンライン中継で繋ぐ形で実施した。

② 心理こども学科

学科行事である「海星子育てひろば」を10月8日から12月10日まで計5回開催した。11組の親子が登録し、延べ110名の参加があった。親子を15組から11組に減らしたり、玩具を消毒したりするなど新型コロナ感染予防対策の中での取り組みであったが、無事終了することができた。ふれあい遊びや人形劇など親子で楽しめるプログラムを実施し、今年度も参加者から好評を得ることができた。なお、保育士を目指す学生には、実践を通して地域子育て支援活動を学ぶ貴重な機会となった。その他、学外で実施予定であった様々な活動、学内で実施予定であった「海星☆音楽フェスティバル」は中止となった。

5. 就職支援、就職内定状況等

① 1～4年次の就職支援

1年次必修の共通科目「キャリアデザイン入門」においては、春学期（英語観光学科）はオンライン、秋学期（心理こども学科）は対面にて将来の進路について考えた。また、2年次必修の共通科目「海星学Ⅰ」（春学期）及び「海星学Ⅱ」（秋学期）では、外部講師及び学科教員・キャリアセンター職員による講義、「卒業生によるピアサポート」の時間を設け、希望する将来の実現に必要な力を養った。3年次生には、正課外プログラムとして「3年次生対象就職サポートプログラム」、4年次生による就職活動体験発表会を実施した。4年次生に対しては、キャリアセンター員による個別相談を行った。

② 教職課程、教員採用試験対策講座

公立学校教員採用試験対策講座及び幼保就職対策講座を5月から2021年3月にかけて、オンライン及び対面にて実施した。

③ 就職内定状況

2020年度の卒業生数は、2020年9月卒業生を含め、82名（英語観光学科46、心理こども学科36）で、そのうち就職希望者数は74名（英語観光学科39、心理こども学科35）、就職者数は72名（英語観光学科37、心理こども学科35）となり、2021年5月1日現在の2020年度就職率（就職者数/就職希望者数）は97.3%（英語観光学科94.9、心理こども学科100）、両学科の実就職率（就職者数/卒業生数）は87.8%である。2019年度就職率は、96.2%（英語観光学科93.7、心理こども学科92.7）、両学科の実就職率（就職者数/卒業生数）は83.3%であった。本学の特徴である個別指導の成果のあらわれだと言える。

6. 生涯教育、地域交流・貢献等

① 「キッズイングリッシュ」出前授業

「キッズイングリッシュ」の担当教員及び履修生が協定校の神戸市立美野丘小学校で春学期及び秋学期に2回ずつ1・2年生のクラスの英語の出前授業を行った。

② クラブ活動

フラ&タヒチアンダンス Pua Nani が「第10回灘区総合芸術祭」（灘区役所）に参加したほか、イラスト部は「六甲病院アートセラピーボランティア」活動をするなどして、地域との交流や社会貢献を行った。

③ 教員による講演・研修会等

外部依頼の講演として、明石市教育委員会4件、明石市市役所4件、神戸市（幼稚園1件・神戸文学館2件）、宝塚市公民館1件（10回）などを本学教員が担当し、延べ約940名の

来場者があった。

④ 中止となった活動

11 講座開講予定であった生涯学習講座は、春学期も秋学期も中止となった。公開講座は大学祭の日に実施予定であったが、COVID-19 の感染拡大の影響により学生のみ対象とするオンライン開催となったため、中止となった。また、「Kids English クラブ」の学生が神戸市内の公民館で実施する「子ども英語」教室の連続講座も中止となった。

7. グローバル人材育成に向けた取組

グローバル人材育成に向けて様々なプログラムを実施予定であったが、2020 年度は海外留学が実施できなかった為、オンラインでの国際交流事業を二つ実施した。一つ目は留学先の一つであるオーストラリア・クィーンズランド大学でのオンライン留学で、夏季休業期間に4週間実施したところ、2名の学生が参加した。二つ目はフランスのサン・ローラン学園とのオンライン交流会を12月と1月に実施し、両校合計20名程度が参加し、両国のコロナ禍での過ごし方や双方地域の観光地についてのプレゼンテーションと意見交換を実施した。参加学生は、画面越しでの交流の難しさを感じた一方で、更なる英語力習得の必要性を実感し、今後の学習意欲向上に繋がっている。

8. キリスト教関連行事

5月に実施予定であった1年次から3年次生対象のキリスト教関連行事、10月に実施予定であった4年次研修、12月に実施予定であった学生クリスマスミサ及びクリスマスキャロルは全てCOVID-19感染防止の観点から中止とした。キリスト教に触れる貴重な体験機会に替わる策として、全学生に対し、それぞれの学年の研修予定であった内容や、今伝えたい内容から自主研修用図書を選択し、配布した。配布した図書は以下のとおりである。

1年次生：シスター渡辺和子著『置かれた場所で咲きなさい』

2年次生：英隆一郎著『イエスに出会った女性たち』

3年次生：カトリック中央協議会出版部著『すべてのいのちを守るため～教皇フランシスコ訪日講話集』

4年次生：シスター鈴木秀子・原邦男著『なぜ、私たちは新型コロナウイルスを与えられたのか?』

また、卒業式を2日後に控えた4年次生を対象とした卒業感謝ミサを3月11日に本学講堂にて実施した。

9. 大学改革関連

① 自己点検・評価における外部評価

2021年3月17日に、神戸市灘区長 廣瀬万希子氏、神戸市水道局事業部東部センター所長 毛利憲士氏、株式会社近畿日本ツーリスト関西取締役営業本部長 松本知氏を外部評価

委員として本学に招き、大学改革運営会議構成員が出席して外部評価委員会を開催した。委員会では、「2020（令和2）年度 自己点検・評価報告書」に基づき、各委員会等の自己点検・評価の取組について報告を行った後、外部評価委員から意見等の提供を受けた。

② FD・SD の取組

9月4日に教職員対象のハラスメント防止研修会を実施した。講師は、社会保険労務士法人 和（なごみ）の畑田豊晴氏、「職場のハラスメントを考える」というテーマで講義していただいた。学内の教室から Zoom による配信を行い、参加者は対面・オンラインいずれかの参加を選択する形を取り、専任教員が全員参加した。

秋学期以降の遠隔授業実施の可能性及び遠隔授業の技術が対面授業においても役立つ可能性を考慮し、9月4日・9日・16日に、遠隔授業の実施のための技術について学習する勉強会をオンラインにて各2時間実施した。専任教員・非常勤教員全体に声をかけたところ、3日程で32名の教員（実数）が参加した。

③ 教員評価

英語観光学科及び心理こども学科の教員は、それぞれの学科主任宛に、共通科目の教員は、共通科目主任宛にそれぞれ人事考課表（担当職務の具体的遂行結果及びそれに対する本人評価について記載したもの）を提出した。その後、学科主任及び共通科目主任が、所属教員と個別面談を実施し、当該教員に対して下した評価を学長に提出した。学長は各主任との面談の後、学長の評価結果を理事長に提出し、理事長が学長との面談の後、最終決裁を行った。

10. 教員の研究活動

『神戸海星女子学院大学研究紀要』第59号及び『神戸海星女子学院大学教育研究紀要』第4号を2021年2月に発行した。また、『言語文化研究』第5号（神戸海星女子学院大学言語文化研究所）を3月に発行した。

11. 施設関係

図書館棟及び本館の空調設備の更新工事及び旧設備の撤去工事を行った。

12. その他

2020年度春学期に計画されていた入学式及び保護者会（入学式後）、教員懇談会（4月）、教育懇談会（6月）は中止となった。2020年度入学生の保護者に対して大学について説明をする機会を2021年度に設定する。6月に予定されていた後援会総会については、2019年度事業報告、2020年度事業計画及び役員選出等の議題について書面審議を行った。

(2) 神戸海星女子学院中学校・高等学校

1. 中学校生徒募集と広報活動について

① 中学校生徒募集

出願者数はA日程158名、B日程116名、受験者数はそれぞれ141名、108名であった(出願者数はA日程5人増、B日程12人増、受験者数はそれぞれ3名減、9人増)。昨年と比較すると、出願者数はA日程・B日程共に微増だったが、当日の欠席者が予想以上に多く、結果としてA日程の受験者数は3名減となった(B日程は9名増)。新型コロナウイルスの感染対策(救済措置)の一環として、A日程のみ追試験を用意した。しかしながら、競合校が追試験を実施しなかったために、万一試験前に感染した場合に備えて、第一志望ではない本校にもダブル出願した可能性がある。その結果、A日程の出願者が増加したが、当日の欠席も多かったのではないかと推測される。入試方式の多様化により、昨年同様A・B日程共に辞退者数の予測は困難を極めたが、慎重にボーダーラインを策定し148名の入学者を確保できた(後に1名転勤のため辞退)。今後、辞退者の傾向分析を行うことで、より正確な予測に基づく定員確保を目指したい。

② 大学入試結果

2021年度の国公立大学合格者数は53名(現役44名)であった(過去5年の合格者総数の平均は67名)。現役の合格率で見ると、2021年度は32%であった(過去5年の平均値は34%)。今後も少子化と共学志向の波に抗して、如何に優秀な生徒を確保するか、大学入試結果と繋がる「入り口」の戦略も喫緊の課題である。2021年度の大学入試に関して評価すべきところは、東京大学合格者2名はどちらも現役で、海星史上初めての快挙となる。また、国公立大学の医学部医学科合格者は計10名、その内現役は7名であったが、現役の合格者数は過去10年で最高である。私立大学の医学部医学科も29名(現役11名)で、全国女子校の中でトップ10に入る好成績である。さらに東京芸術大学にも1名現役で合格したが、東京大学と東京芸術大学のどちらにも合格者を出す学校は全国でも珍しい。個性豊かで多才な生徒が6年間学びを共にする本校ならではの結果と言える。

③ 広報活動

新型コロナウイルスの感染拡大のため、2018年度より始めた教員による塾訪問を中止、パンフレットやポスター、リーフレットはすべて塾に郵送した。塾への直接的な広報活動は大きく制限されることになった。また、校外の相談会、私学連合会主催、業者主催の合同説明会、塾主催の説明会も大半が中止に追い込まれた。校内では学院祭が中止、体育祭は非公開となった。オープンスクールも開催できず、それに代わる「学校見学会」を9月と11月に実施した。学校説明会に関しては、概ね従来通りの形態で実

施できたが、2回共予約制にして出席者数を制限した。外部メディアを利用した広報は、例年通り受験情報雑誌等への広告掲載を中心に実施した。昨今、広報・宣伝の媒体がネットにシフトしている傾向に鑑み、新聞広告への掲載を減らし、読売オンライン等ネット媒体を活用した広報活動に注力した。記事の一部が yahoo ニュースに掲載されるなど新たなスタイルでの情報発信につながった。また、業者に依頼し、本校紹介のメッセージ動画を作成、塾及び教育情報機関にそのデータを提供した。

2. 学校納付金等について

2020年度の授業料に関しては、中1から高2まで66万円、高3は経過措置のため年額63万6000円であった。教材費預かり金については、2020年度卒業生については総額8,789円の不足が生じたので、生徒一人当たり64円を学校負担とした。積立金に関しては、29,528円の余剰金が発生したため、保護者に事前通知の上返金した。

3. 教育活動について

① 教育課程

「カトリック学校としての本校の教育を継続して行う」と、「生徒の希望する進路の実現」を2つの柱として教育課程を編成している。中学の教科学習においては、基礎・基本の定着を図るとともに、中学3年生からは、高等学校の学習内容も取り入れた発展的内容を含む教育課程を編成し実施した。中学3年の英会話とフランス語の選択による少人数の授業も引き続き開設した。

② 数学、英語での習熟度別授業・少人数授業の実施と成績不振者対策)

中3数学においては習熟度に応じた3クラス編成（標準2クラス・発展1クラス）、中3英語は少人数授業の更なる充実を図るべく、均等3分割編成を継続した。高1と高2の英語については、標準・発展の習熟度別2クラス編成、高2数学に関しては、理系と文系に分けた上で、それぞれ標準・発展に2分割し、より一層生徒個人の学力に見合った効果的な授業を実施した。また中学生に関しては、定期考査ごとに、成績不振者に対して英語と数学の補習を行い、低学力生徒の危機意識を高めると共に、基礎学力の定着を図った。

③ 学級編成について

各学年のクラス数については、2011年度に中学校4クラス化が完成以降、変更はしていない。設備、教員等諸事情を考え、2020年度も中学4クラス、高校3クラスの編成とした。

④ 特別活動、宿泊行事

新型コロナウイルスの感染拡大のため、多くの行事・活動が実施できなかった。
中止された主な行事は下記の通り。

【遠足・合宿】 中1：遠足「イングランドの丘」、中2：合宿「蒜山高原」、中3：異文化理解合宿、
高1：大塚国際美術館見学
【宗教行事】 高3：「静修合宿（ユニトピア篠山）」 【中1～高2】：各静修
【福祉活動】「ワークキャンプ」、「青陽東養護学校との交流学習」

福祉活動に関しては、(財)神戸市民福祉振興協会「しあわせの村」での福祉体験学習を協会側の好意と協力により、感染対策を講じた上で、無事実施できた。例年とは異なるプログラムであったが、生徒にとって極めて貴重な体験となった。

⑤ 高Ⅱ修学旅行

新型コロナウイルスの感染拡大のため中止した。

⑥ 海外研修

オーストラリアとの交換プログラムについては、セント・クレア校への訪問の年であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となった。「イギリス語学研修」も同じく中止された。

⑦ ICT教育

2018年度(9月)にはほぼ全教室に電子黒板プロジェクターを導入するとともに、全教員にタブレットを配布した。操作方法に関する研修会を通じて、効果的な活用法を習得すると共に、実際の授業で積極的に使いながら各先生方が自己研鑽を重ねていく中で、普及・定着してきた。2020年度、新型コロナウイルスの感染拡大による一斉休校期間中にオンラインで授業を配信するニーズが高まり、急遽ICT担当のチームを編成、システムの構築に取りかかった。Google社の『G suite for education』を使用し、各授業での教材提示及び情報提供はもとより、Meet機能を利用したリアルタイムでの授業配信など、多岐に渡るICT教育の整備・充実に尽力した。特筆すべきは、休校中の5月21日～5月30日に実施した「オンライン授業(リアルタイムでの配信)」である。正規の時間割に沿って、月曜日～土曜日、1限～6限(土曜日は3限)、体育や音楽など実技系を含むすべての授業において実施、専任・非常勤関係なくすべての教員が、学校あるいは自宅から配信した。ICTチームを軸に、その他若手教員のサポートの下、全教員が一丸となってこの難局に立ち向かい、大きな成果を得たことは何物にも代えがたい収穫であった。これを機に、校内におけるICT化の流れが加速し、6月休校解除後に、生徒一人一台Google社製コンピューター「Chromebook(クロームブック)」を学校より貸与(全教員にも配布)、非常時のオンライン対応を含め教育の幅が大きく広がった。

4. 学校評価について

① 自己評価

年度末に教科指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した（資料1）。評価項目は昨年と同じである。各項目の評価結果には若干の変動はあるが、全体として顕著な変化は見られなかった。

（資料1） 2020年度 学校評価

I 評価項目と評価の方法

（1）評価項目の設定

「教科指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核的分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

（2）評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

II 評価結果

	評価項目	評価
A	教科指導	
	①総合的に年度当初の目標が達成されているか	3.8
	②生徒の学力、意欲、進路志望に照らして適切な学習目標が設定されているか	3.9
	③設定した学習内容の水準や進度が保たれているか	3.9
	④目標とした内容が定着しているか	3.6
	⑤同一教科・科目の前後する学年における学習内容や担当者との連携がとれているか	3.9
B	校務分掌	
	①担当業務が適切に処理されているか	4.0
	②関係者・学年・分掌との連絡・連携が円滑に行われているか	3.9
C	担任業務	
	①生徒とのコミュニケーションが取れているか	3.9
	②保護者との連携がとれているか	3.8
	③学年内の連携がとれているか	4.3
	⑤教科担任との連絡がとれているか	4.0

(3) 神戸海星女子学院小学校

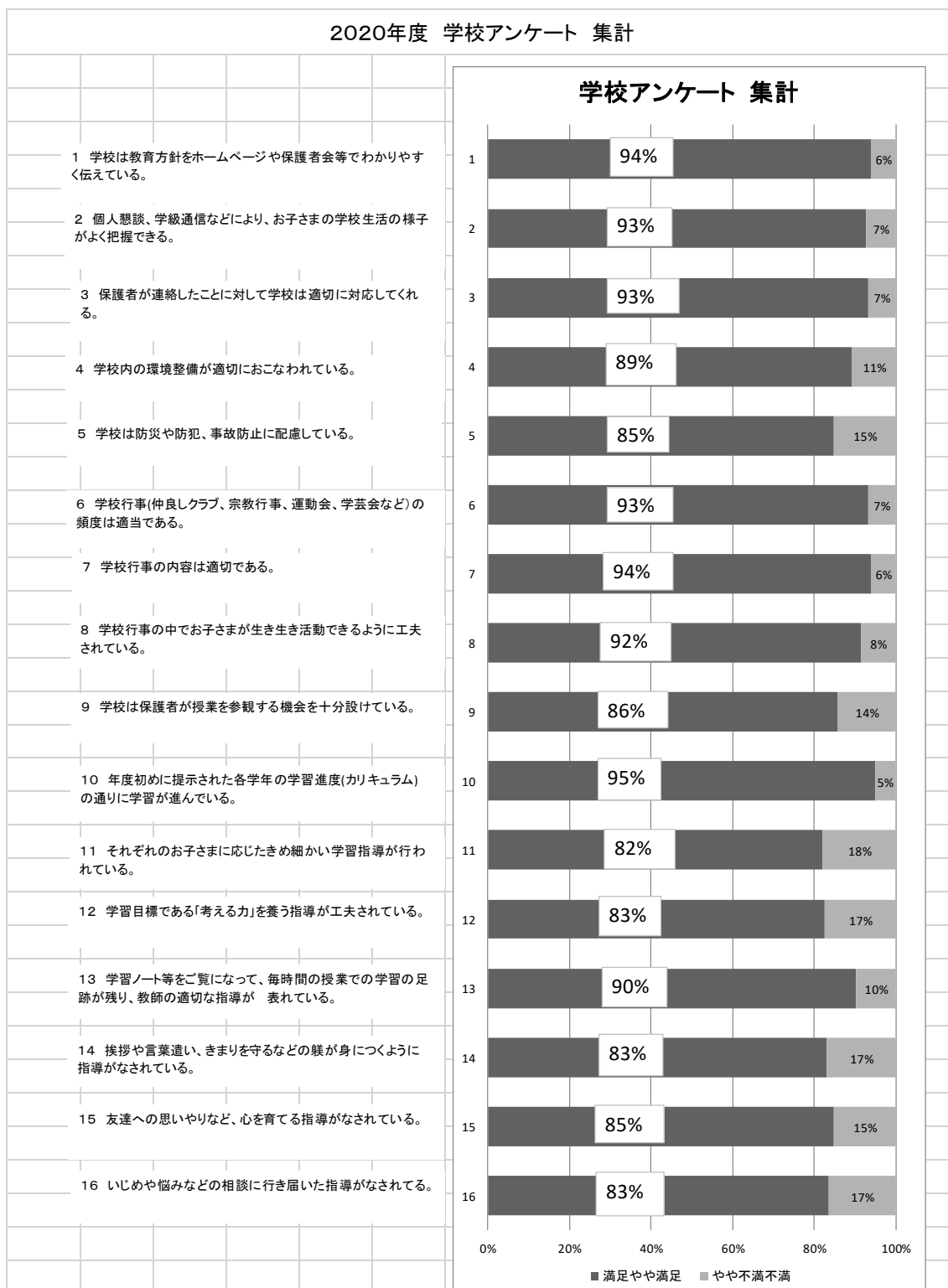
1. 小学校広報活動と児童募集について

幼児教室4か所(奨学社、ぷらいまりー、くま教育、チャイルドアイズ)と海星マリア幼稚園を年間2回訪問し、2022年度入試に向けて海星小学校の特色や一貫教育について説明を行い、2021年度入試のペーパーテスト問題についての解説等を行った。また、2020年度は入試後の9月に8つの幼児教室を回り、入試報告と転入募集についての説明も行った。12月に、第8回の「兵庫県私立小学校フェア」が兵庫県の私学11校が集まり、生田神社会館で行われた。海星の受験を考えている保護者を対象に、本校の特色や少人数2クラス制のよさなどの説明を行った。本校ブースへの訪問者は過去最高であった。2021年2月に予定していた「兵庫県私立小学校 個別進学相談会」が、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった。それを受け、兵庫県私立小学校の説明会や入試情報を11校でまとめてリーフレットにし、兵庫県全幼稚園児(年中)に配布した。受験希望者に対して、学校での説明会を6月と10月の2回行った。第1回目の6月は、年長の保護者を対象に説明会を行った。第2回目の10月は、年中の保護者を対象に学校説明を行った。2回ともコロナ禍であったが、多くの参加者があった。2020年度より小学校機関紙「かいせい」を、写真を多く掲載したカラー版に改定し、広報ツールとしても活用し、在校生保護者も含めて好評であった。その他の広報活動としては、10月の説明会参加者や図工展登録者、幼児教室に、クリスマスカードや図工展の写真、本校の機関紙「かいせい」を郵送し、本校の様子を月1回を目途に伝えるように努めた。2021年入試は、48名の募集に対し67名の志願者があり、52名の合格者を出し、50名が手続きをした。1月には転入試験を行い、現2年2名、現3年4名が受験し、現2年2名、現3年3名を合格とした。2021年度の児童数は、1年生50名、2年生51名、3年生47名、4年生51名、5年生47名、6年生48名、計294名となった。21年度は、募集人数48名×6学年=288名は確保できた。

2. 学校評価について

毎年3月に、保護者に対して無記名で学校評価に対するアンケートを実施している。236名の保護者から回答をいただいた。(回収率90%) (資料1) 2020年度は、16項目中12項目で昨年以上の高い評価をいただいたが、「それぞれの子どもに応じたきめ細かい学習指導」については、まだ十分に評価されていない。放課後演習を見直し、子ども一人一人の学力を伸ばすための教員研修を充実させていく。生活面については、「あいさつや言葉遣い、きまりを守るなどの躰」について、登下校のマナーや言葉遣いなどしっかりできるように、さらに指導をしていく。保護者の記述式による意見は、海星の教育を考える良い機会になっている。これを受け、職員間での話し合いを、春休み中に実施し、全教員で共有した上で、今後の教育活動に活かしたい。

(資料1) 2020年度 学校アンケート



次に、教員による自己評価についてである。年度末に学習指導・生活指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した。結果については、職員会議で教員に周知を図った。今年度は例年に比べて、Cの担任業務に

ついて自己評価が低くなっており、来年度に向けて保護者との連携をとるなどに努めていきたい。Aの学習指導については、個々の児童の学習状況の把握など、自己評価が高くなっているため、来年度も継続していきたい。

(資料2) 2020年度 学校評価

I 評価項目と評価の方法

(1) 評価項目の設定

「学習指導・生活指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核分野と捉え、それぞれについて評価項目を設定した。

(2) 評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

II 評価結果

	評価項目	評価
A	学習指導・生活指導	
①	総合的に年度当初の目標が達成されているか。	3.7
②	個々の児童の学力に応じた適切な学習目標を設定し、適切な指導をしているか。	3.6
③	教材研究を常に行い、よりよい授業ができるよう工夫しているか。	4.1
④	設定した学習進度（カリキュラム）が保たれているか。	4.0
⑤	個々の児童の学習内容が定着しているか。	4.2
⑥	目標とした学習内容が定着しているか。	3.8
⑦	同一教科の前後する学年における学習内容について、担当者との連携が取れているか。	3.8
⑧	基本的なしつけやルールの指導に努めているか。	4.0
⑨	豊かな人間関係作りに向けた指導に心掛けているか。	3.9
⑩	授業研究など校内外の研修に向上心を持って取り組んでいるか。	3.7
B	校務分掌	
①	分掌した校務を主体的に、的確に遂行しているか。	4.3
②	関係者・学年・他の分掌との連絡、連携が円滑に行われているか。	3.6
C	担任業務	
①	保護者との連絡を密にし、児童の実態把握に努め、信頼関係を築いているか。	3.7
②	学級経営方針を明確にし、きめ細やかな指導を行っているか。	3.7
③	専科教員との連携が取れているか。	3.8
3.	教育について	

① 特色ある教育

(ア) 宗教教育

全校生毎週1時間の宗教の時間や、週1回(金)の礼拝朝礼、毎日の朝礼終礼などお祈りをする習慣を大切に指導した。全校朝礼では、教師が毎週交代で、その日の祈りと主の祈りを児童と一緒に唱えた。その他にも「創立記念ミサ」「クリスマス会」「感謝のミサ」などの宗教行事を通して宗教教育を行った。

(イ) 外国語(英語)教育

2020年度は、全校生週に3時間、教員3人体制で英語の授業を行った。ネイティブ教員と英語専科が主となり授業を展開、担任は児童一人一人に寄り添って支援を行った。正しく発音できているのか、正しい綴りで書けているのか、児童の理解度を図るためのチェック体制を充実させている。

(ウ) 福祉教育

毎年5年生が訪問している老人ホーム(大池サンホーム)の訪問は、新型コロナウイルスの影響で中止になった。

(エ) 「仲良しクラブ」活動

異学年集団でのボランティア活動や自然体験、制作活動を通し、情操豊かな子どもを育成し、高学年にはリーダーとしての自覚を身につけさせることを目的とし、年間11時間実施した。

・1年生歓迎会	1時間
(春の遠足 中止)	
(小運動会 中止)	
・七夕づくり	2時間
・秋の遠足(王子動物園)	5時間
(校外清掃 中止)	
・読書祭り	2時間
・6年生とのお別れ会	1時間

② 今年度の取り組み

(ア) 一斉休校後の6月に、保護者の方に学校のことをさらによく理解していただくために学級保護者会を行った。9月には、1学期でできなかった授業参観を3回に分けて土曜日に行った。11月に学年保護者会を行い、1～6年生の保護者にiPadについての説明を後、児童に一人1台貸与した。授業はもちろんのこと、オンライン保護者会等にも活用している。

(イ) 学級間や、低学年・中学年・高学年の教員間の情報交換を活発にするため、月に2回火曜日の放課後に教員の学年部会を行い、職員会議でそれぞれの部会で話し合われたことを報告し共有した

(ウ) 学年ごとの宿泊を伴う行事

※ 新型コロナウイルスの影響で制約の多い学校生活となったが、その中で、5年生の奈良

学年	合宿など	場所	体験内容	今年度
2	学校合宿	小学校校舎	家族を離れての共同生活 王子動物園、学校のプール	中止
3	校外合宿	神戸市立自然の家（六甲）	カヌー、アーチェリー、ネイチャーハイクなど、自然の中での活動	中止
4	淡路島合宿	国立淡路青少年交流の家	砂浜での活動・集団生活 規律を守る・仲間づくり	中止
5	スキー合宿	鉢伏高原	スキー技術の向上 冬の自然体験・仲間づくり	中止
	校外活動	奈良県明日香村	飛鳥寺、石舞台古墳など 明日香村を散策	日帰り
6	修学旅行	沖縄方面	伊江島民泊（異文化体験） 平和学習・沖縄の歴史	3泊4日
		広島市	平和記念資料館 平和記念聖堂訪問	日帰り

明日香村への歴史学習を目的とした校外活動と、6年生の広島への平和学習と宗教教育の締めくくりとしての修学旅行を企画できたことは、子どもたちにも保護者にも良い機会となった。

(4) 神戸海星女子学院マリア幼稚園

1. 園児数の状況について

2020年4月1日の園児数は年長児89名、年中児93名、年少児99名、計281名でスタートした。年度末(3月)の園児数は年長児88名、年中児95名、年少児98名、満3歳児32名の計313名であった。

2. 幼稚園に関する社会情勢について

① 少子高齢化

少子高齢化が進む。西宮市北部、西宮浜地区、鳴尾地区の少子化が深刻。

② 幼稚園教諭、保育士人材不足

女性の社会進出が進み、就労しやすい社会になってきた。そのため長時間保育の施設が増加。その結果幼稚園教諭、保育士が足りない状況である。西宮市は住みたいまち1位ではあるが、待機児童は全国ワースト5に入っている。夙川地区も待機児童が市内で最も多く、新しい保育施設が次々出来ている。

③ 幼児教育無償化実施

2019年10月より上限25700円まで保育料を無償化となった。マリア幼稚園は差額8300円を徴収。母親就労者は預かり保育の料金も1日450円補助される。

④ 子ども子育て新制度

2015年4月より新制度が導入された。新制度に移行する園と私学助成のままの園がある。少しずつ移行する園が増えてきている。

⑤ 新型コロナウイルス感染症流行

全世界で未知なるウイルスの大流行。先の見えない日々が続く。

⑥ 多様性の受け入れ

誰もが活躍できる「多様性のある社会」、個々の違いを受け入れ、認め合い、生かしていく世の中が求められ始めた。

3. 幼稚園の教育活動

① 2020年度コロナ禍の保育日の日程

4月7日 入園の日

4月9日～5月31日 緊急事態宣言のため休園

6月1日～6月26日 分散登園
6月29日～7月17日 通常保育
7月20日～7月31日 (8日間保育延長)
12月21日～12月24日 (4日間保育延長)

② コロナ禍の保育

(ア) モンテッソーリ教育の保育形態

一斉保育ではないことが幸いであった。一人ずつの活動が中心なので室内活動においてもソーシャルディスタンスを保つことが出来た。また教師も大きな声で指示することはないので、通常通りの保育が出来た。(密集、密接の回避、飛沫拡散の回避)

(イ) 保育室の環境

南北の扉がサッシで全開放できる。外とほぼ同じ環境である(密閉の回避)

(ウ) 自然環境

風通しが良く園庭も広いので密になることもない。園庭環境も自然豊かで昆虫が多く一日中遊んでも飽きない園庭なので通常通り充実した保育が出来た。

(エ) バス通園

バスの中ではマスク着用を義務付けする。バスコースは30分毎に3便あるので毎日時間差がつく登降園になる。(密集の回避) コースごとに座席の消毒、窓を開けて換気をする。

(オ) 給食

ビュッフェ形式をしていたが、各自で配膳する時トングが感染の危険を伴うので中止。その代わりお弁当箱を購入し厨房の方に給食をお弁当箱の中につめてもらう。汁物はなくなる。お弁当の量は統一になってしまうので、「おかわりなし、残してもいい」という形になる。保育室だけでなくウッドデッキも使って机の配置が密にならないように広くして食べる。子どもたちのクッキングは中止する。

(カ) 基本的感染対策

毎日検温。手洗いの徹底。消毒の徹底(保育後)。

1学期は子どもたちのマスク着用は自由。(教員は着用)

11月12日より感染拡大期Ⅱになったため保育室内をマスク着用にする。

(キ) 在園児以外の園内立ち入り禁止

保護者の園内立ち入りを断る。園庭開放も中止。保育参観中止。

小学生の立ち入り禁止。小学校が休校の時には卒園生が幼稚園に遊びに来ることが出来るが、中止。

(ク) 動画配信サイト「おうちえん」

- ・4月5日の緊急事態宣言中の休園中、動画配信サイト「おうちえん」を利用し、教員が手遊び、歌・ダンス・クイズ等、子どもが自宅で楽しめる動画を配信した。
- ・保育参観が出来なかったので、3学期に幼稚園の子どもたちの様子をクラス毎に撮影し配信する。

(ケ) 園内感染状況

- ・5月9日教員家族内感染、無症状
- ・12月14日保護者感染 園児陰性

(コ) 満三歳児入園・つくし組

6月から入園する予定であった満三歳児は9月入園とする。

未就園児クラス（つくし組）は1学期中止とし、9月より始める。

③ コロナ禍の行事

(ア) 入園の日 4月7日（火）実施。

保育室南北サッシを全開放して換気をし各クラスでのプログラムのみに変更。

時間も短縮（密集対策）（密閉対策）

手指消毒用アルコールの設置、検温、保護者マスク着用（密接対策）

〈入園の日のプログラム〉

クラス発表、各クラス保育室で親子集合写真、各クラス内で自己紹介のみとした。

ホールでの保護者向け「在園のしおり」説明会は100名以上が参加することになるため中止。子どもたちのクラス体験、ホールでの各クラス子どもたちと担任での壇上写真撮影も中止とした。

(イ) 親子遠足 緊急事態宣言中のため中止

(ウ) ホームカミングデー 新型コロナウイルス感染症が心配なため中止

(エ) A組キャンプ 9月4日（金）

園で一泊二日のお泊り保育を予定していたが、新型コロナウイルス感染症が心配なためデイキャンプに変更した。9時からウオータースライダーや水鉄砲、プール、スイカ割り。午後から各クラス縁日をし、お店屋さんごっこを楽しむ。石窯付キッチンカーで焼いたピザを食べたり、夜はキャンプファイヤー、打ち上げ花火をして楽しい思い出を作っ

た。

(オ) 夏季アフタークラス 新型コロナウイルス感染症が心配なため中止

(カ) 参観日 新型コロナウイルス感染症が心配なため中止

(キ) スポーツデー 10月11日(日)

密集対策 保護者A組2名 BCD組1名に人数制限。

親子競技を中止。待合室を準備。

密接対策 子どもエリアに保護者立ち入り禁止。

アルコール消毒設置、検温、マスク着用

(ク) クラス遠足 人混みを避け甲山森林公園に各クラス園バスで出かけた。

(ケ) 七五三 11月5日(木)

例年の夙川カトリック教会でみ言葉の祭儀は中止にした。幼稚園のホールで神父様にお話をさせていただく。千歳飴に聖水をかけていただき祝別する。神父様からの一人ずつの祝福は中止。千歳飴を持ってマリア様と一緒に一人ずつ記念撮影をする。

(コ) 聖劇 12月1日~4日

予定していた日程を繰り上げて行う。A組保護者2名まで。BCD組保護者1名とする。内容は1時間以内に収まるように作る。退職した先生達はリハーサルを観劇。当日は例年通りのいい聖劇が出来た。

(サ) ご家族によるクリスマスみことばの祭儀(夙川カトリック教会) 中止

(シ) おもちつき 12月21日(月)

例年は1月にA組保護者に来ていただいて一緒に餅をついて自由に食べていたが危険なため中止。12月に保護者なしで鏡餅つくりに変更。食べないため時間に余裕があり子どもたちは全員餅をつくことができた。各クラス出来上がった鏡餅と一緒に毛氈に座って写真撮影する。お正月開けてから鏡開きをする。日本の文化を楽しめた。

(ス) 卒園の日 3月18日

ホール内での式の参加は保護者1名とし、別に各クラスを待合とし、希望の保護者はそこでライブ配信を見ながら待機する。園児退場の時にはスロープに花道を作り子どもたちを祝った。当日のエンドロールも式の最後に流した。式のプログラムはほぼ例年通りを行う。感染対策としてはホールに次亜塩素酸大型空気清浄機2台設置、アルコール消毒設置、検温、マスク着用、換気。ホールでの式後に各クラスでのお別れ会の歌の禁止。

(セ) 懇談会・個人面談

2学期に各クラス学年別(12人)懇談会をする。子どもの様子を伝える。感染対策をしながら、3学期に希望者による個人面談をする。

④ 園庭整備

園舎滑り台の移設

スポーツデーでグラウンドとして使用するために園舎中央に設置していた滑り台をに東側に移設した。

4. 募集活動

① 「幼稚園で遊ぼう」

子育て支援の一つとして年間を通じて未就園児の親子リトミックを外部の方に行っていたが新型コロナウイルス感染症が心配なため中止。

② 説明会 9月19日(土)

例年は保育時間中に説明会を行い在園児の様子も見学できるように考えていたが、在園児と外部の大人との接触をなくすため日程を19日(土)に変更する。説明会参加希望者をネット申し込みで受付した。ホール入室を一家族一人と制限しホール内を全体で90名までとした。両親で来る場合は一人は園舎見学をする

- ・9時 参加数 139名
- ・11時 参加数 93名
- ・14時 参加数 77名 計309名

③ 入園考査

10月1日(木)8時から8時半まで受け付け

面接考査は5組1グループとする。8時から14時半まで面接考査をする
考査後、全員で審査。

④ 募集結果

(ア) 3歳児入園

出願数 111名(男52名、女59名)

合格者 67名(男33名、女34名)弟妹、つくし組25名含む。外部42名

(イ) 満3歳児入園

出願数 55名(男25名、女30名)

合格者 31名(男12名、女19名)弟妹15名含む。外部16名。

(ウ) 課題

- ・例年、保育所希望、他園を希望、転勤などで入園までに辞退する方が数人おり、多い目の合格者を出していたが、今年度は辞退者が1名のみとなったので入園者が多くなってしまった。
- ・卒園生、在園生、つくし組を優先すると外部からの競争率が高い。選考基準を再考する。

(5) 施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地	施設等	面積等
神戸市灘区青谷町	大学本館	6,559 m ²
	大学2号館	2,149 m ²
	大学図書館	4,047 m ²
	中高校舎、講堂	10,627 m ²
	中高食堂ロッカー棟	659 m ²
	体育館	1,675 m ²
	小学校校舎	3,316 m ²
西宮市木津山町	幼稚園園舎	1,725 m ²

② 主な施設設備の取得又は処分計画及びその進捗状況

イ) 大学 図書館棟及び本館 空調設備更新工事 (2021年3月31日完工)